

PRESS RELEASE

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITYNTT
ExCパートナー

報道機関 各位

公立大学法人 宮城大学 大和キャンパス事務局
企画・入試課 企画・広報グループ (担当:小野寺)
宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 TEL.022-377-8746

AI アバターと対話しながら保健指導を学ぶ — 保健師課程学生の実践力向上を目指した新たな教育教材を開発 —

宮城大学看護学群・地域看護学領域および基礎看護学領域（代表：江角伸吾教授）は、株式会社 NTT ExC パートナーと共同で、「医療系人材育成のための AI アバターを用いた革新的教育教材の開発と評価」をテーマとする共同研究を開始しました。その第 1 弾として、保健師課程の学生が AI アバターとの対話を通して、保健指導を実践的に学習できる教材を開発しました。

本教材では、生活習慣や健康状態、健康に対する考え方などが設定された AI アバターを模擬対象者として、学生が生活習慣を振り返るための質問、健康情報の提供、行動変容に向けた支援などを繰り返し練習することができます。限られた授業時間や人的資源の中でも、学生一人ひとりの実践機会を拡充し、講義や対面演習を補完する新たな学習環境の構築を目指します。

POINT 1

AI アバターを「教える側」ではなく、
保健指導を受ける「模擬対象者」
として活用

POINT 2

AI アバターが「模擬対象者」として、
その都度異なる反応をすることで、
より実践に近い状況を想定

POINT 3

ループリック評価により、保健師
課程学生が繰り返し自分の特徴を
把握しながら練習することが可能

1. 開発の背景 — 「知っている」から「できる」へ

保健指導では、疾病予防や健康づくりに関する知識を伝えるだけでなく、対象者の生活背景や価値観、健康に対する考えを理解し、本人が主体的に健康行動を選択できるよう支援する力が求められます。そのため保健師課程学生には、知識の習得に加え、対象者との対話を通して情報を引き出し、状況に応じて説明や働きかけを調整する実践的な能力が必要です。

一方、こうした能力を身につけるには、ロールプレイや模擬対象者との演習を繰り返し経験することが重要ですが、授業時間、教員数、模擬対象者の確保などには限界があります。また、学生によって必要な練習量は異なり、「もう一度試したい」「異なる聞き方を試したい」と思っても、授業内だけでは十分な機会を確保しにくいという課題があります。さらに近年では、実習施設の確保や実習日数・体験内容には制約があり、学生が十分な実践経験を得ることが難しいという課題があります。

そこで本共同研究では、宮城大学が持っている保健医療の知識・技術と株式会社 NTT ExC パートナーが持っている AI アバター技術を組み合わせ、学生が自分のペースで保健指導を繰り返し練習できる学習教材を開発しました。AI アバターを正解提示のためのツールとしてではなく、学生の問いかけに応答する「模擬対象者」として活用する点が、本教材の特徴です。

PRESS RELEASE

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITYNTT
ExCパートナー

2. 開発した教材の概要

本教材は、[特定保健指導における積極的保健指導]を想定した対話型シミュレーション教材です。AI アバターには、年齢、生活習慣、健康状態、仕事や家庭の状況、健康に対する認識、行動変容への準備性など、対象者としてのプロフィール等を設定しています。学生は、画面上の AI アバターを相手に、実際の保健指導を想定した対話を行います。学生の質問や説明に対して AI アバターが応答するため、一問一答ではなく、学生の働きかけによって対話の展開が変化します。学生は、対象者の生活背景や思いを引き出し、健康課題を共有しながら、実行可能な行動目標を一緒に考えるプロセスを体験します。

3. 本教材の 3 つの特徴

特徴 1 AI アバターを「保健指導対象者」として活用

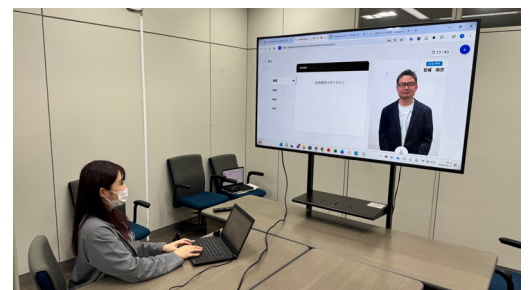
生成 AI に知識や正解を尋ねるのではなく、AI 側に対象者の人物像や状況を設定し、学生が保健指導を行う相手として利用します。学生は相手の反応を予測しながら質問や説明を工夫する必要があり、対人支援に近い形で学習できます。

特徴 2 何度でも、異なるアプローチを試すことができる

学生は同じ事例に繰り返し取り組み、「質問の順序を変える」「説明方法を変える」「対象者の言葉をさらに掘り下げる」など、異なるアプローチを試すことができます。失敗しても再挑戦できる環境をつくることで、試行錯誤を通じた学習を促します。

特徴 3 対面演習を補完し、学生一人ひとりの実践機会を拡張

本教材は、教員や模擬対象者による対面演習を代替することを目的としていません。事前練習や実習前の復習として AI アバターとの対話を取り入れることで、対面演習でより深い学びに取り組めるようにし、限られた教育資源の中で学生一人ひとりの練習機会を広げることを目指します。



PRESS RELEASE



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



NTT
ExCパートナー

4. 想定する学習の流れ

- ① 保健指導に必要な知識や基本的な対話技術を確認する。
- ② AI アバターを対象者として、情報収集、対象理解、情報提供、行動目標の検討などを行う。
- ③ 自分の質問、説明、A 対象者の反応を振り返り、「何ができたか」「次にどう変えるか」を整理する。
- ④ 必要に応じて同じ事例へ再挑戦し、異なるアプローチを試す。

AIアバターとつくる学びのサイクル



5. 教育効果を科学的に検証

「新しい技術を使った」という事実だけでなく、実際に学習成果につながるかを検証することが重要です。今後、本教材を用いた教育プログラムを実施し、学生の学習成果や教材の有用性を多面的に評価します。評価では、特定保健指導に関する知識、学習者の自信、学習意欲、教材のユーザビリティや受容性などを確認する予定です。得られた結果をもとに教材や学習プログラムを改善し、AI アバターを活用した教育方法の有効性と課題を明らかにしていきます。

6. 今後の展開

本教材で得られた知見をもとに、対象者設定や学習場面を拡充し、さまざまな健康課題に対応できる教育教材へ発展させることを検討しています。また、看護基礎教育だけでなく、保健師をはじめとする保健医療専門職の卒後教育や研修などへの応用可能性についても検討していきます。

AI 技術の利便性だけを追求するのではなく、対人援助職の教育において「人と向き合う力」をどのように育てるかという観点から、対面教育と AI 技術を適切に組み合わせた教育モデルの構築を目指します。

また、第 2 弾として基礎看護学領域で患者との意図的コミュニケーションを題材として教材の開発を進めております。2026 年 11 月にリリース予定です。

7. 本取り組みについて

教材名称	看護師・保健師コミュニケーションプラクティス AI
開発主体	宮城大学・看護学群・地域看護学領域
対象	看護学生／保健師課程学生 等
開発・実施時期	2026 年 3 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日
研究費・共同開発	共同研究開発：医療系人材育成のための AI アバターを用いた革新的教育教材の開発と評価
研究内容に関するお問い合わせ	宮城大学 看護学群 地域看護学領域 教授 江角伸吾 TEL：022-377-8234 / E-mail：esumis@myu.ac.jp

本リリースに関するお問い合わせ先

宮城大学 企画・入試課 企画・広報グループ／電話：022-377-8217 メール：kouhou@myu.ac.jp